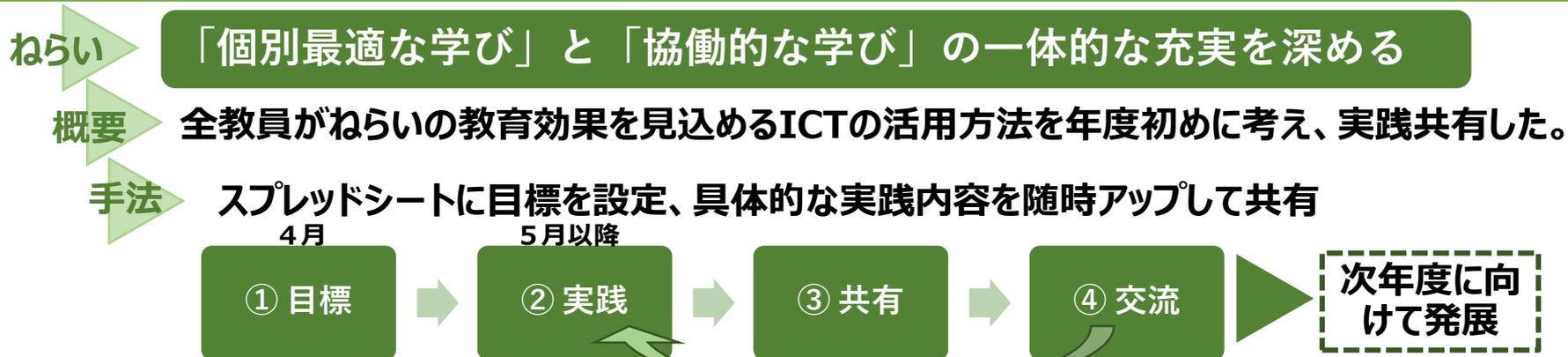


リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島立牛田中学校（広島県）【指定校】

【取組内容】 年度初めに全教員がICT活用の目標を設定し、その実践をスプレッドシートで共有した



① 目標

今年度特に取り組みたいことに○をつける

② 実践・③ 共有

取組 1

取組 2

手法

振り返り

- ◎ 成果
- 全員が年度初めに設定した目標を意識して実践できた。(①②)
 - 同僚のアイデアや、視察で得た知見を取り入れた実践例が共有され、全体のICT活用スキルの向上に役立った。(②③④)
 - 教師による授業参観で教師間交流が活性化した。(④)

▲課題 実践したことが、一部シートに共有されなかった。(③)

実践総数	対象教員数
91例	38人

※令和6年12月末時点

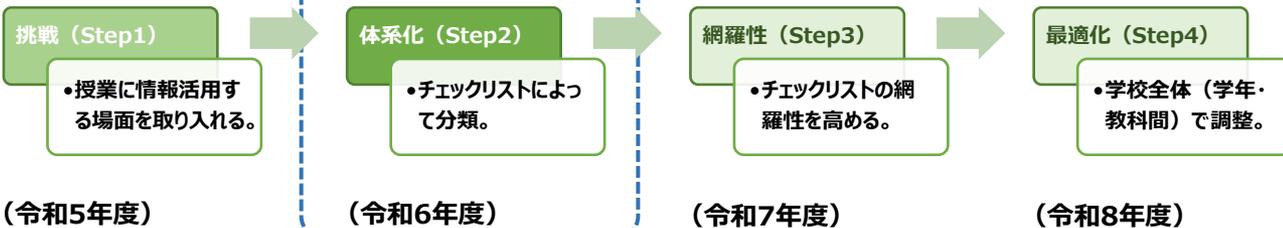
【取組内容】 情報活用能力チェックリストを用いた体系的な情報活用能力の育成と取組の可視化（1/2）

（情報活用能力の育成）

● 概要

他県の情報活用能力チェックリストを活用して、ICT活用授業における情報活用能力育成状況を列挙する研修会を実施。その結果をカテゴリ別に集計することで浮かび上がった課題と対策を報告する。

● 情報活用能力の育成計画



◎ 令和6年度の取組（情報活用能力の育成の体系化）

表 チェックリスト

（※1, ※2, ※3を参照し作成）

第1分野	第2分野	第3分野	レベル1（中学校1年）	レベル2（中学校2,3年）	
情報と情報技術を適切に活用するための知識・技能	情報技術に関する技能	B1	キーボードを使って、ローマ字入力ができること（キーボードの機能や、指の位置、キーの位置などについて説明できること）。	A1	キーボードを使って、ローマ字入力ができること（キーボードの機能や、指の位置、キーの位置などについて説明できること）。
		B2	ソフトウェアのインストールとアンインストールができること。	A2	ソフトウェアのインストールとアンインストールができること。
		B3	スプレッドシートを使って表やグラフを作成すること。	A3	スプレッドシートを使って表やグラフを作成すること。
		B4	コンピュータネットワークの仕組みによって、インターネット上で検索できること。	A4	コンピュータネットワークの仕組みによって、インターネット上で検索できること。
		B5	画像編集ソフトを使って画像を加工すること。	A5	画像編集ソフトを使って画像を加工すること。
問題解決・探究、表現、整理、分析、表現、発表の技能	情報収集、整理、分析、表現、発表の技能	B6	知りたいことや、調べたいことを、インターネットで調べることができること。	A6	知りたいことや、調べたいことを、インターネットで調べることができること。
		B7	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。	A7	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。
		B8	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。	A8	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。
		B9	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。	A9	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。
		B10	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。	A10	必要な情報を自分自身で入力して入力できること。
情報モラル・情報セキュリティについての理解	情報技術の発展・革新の理解	B11	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。	A11	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。
		B12	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。	A12	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。
		B13	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。	A13	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。
		B14	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。	A14	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。
		B15	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。	A15	自分の意見や考えを、インターネットで発表すること。

表 チェックリストの項目数

カテゴリ	レベル1[B] 要求レベル☆☆☆ (中学1年)	レベル2[A] 要求レベル☆☆☆ (中学2,3年)
思考力・判断力・表現力等	B1～B14 (14項目)	A1～A14 (14項目)
学びに向かう力・人間性等	B15～B22 (8項目)	A15～A22 (8項目)
学びに向かう力・人間性等	B23～B28 (6項目)	A23～A28 (6項目)

【参照資料】

- ※1（令和元年度）次世代の教育情報化推進事業「情報教育の推進等に関する調査研究」成果報告書 学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成 <体系表例とカリキュラム・マネジメントモデルの活用> https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1400796.htm
- ※2「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」第2章 情報活用能力の育成 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
- ※3 川崎市情報活用能力チェックリスト GIGA2022年度版 <https://kawasaki-edu.jp/index.cfm/6,3034,36,138,html>

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島立牛田中学校（広島県）【指定校】

【取組内容】 情報活用能力チェックリストを用いた体系的な情報活用能力の育成と取組の可視化（2/2）

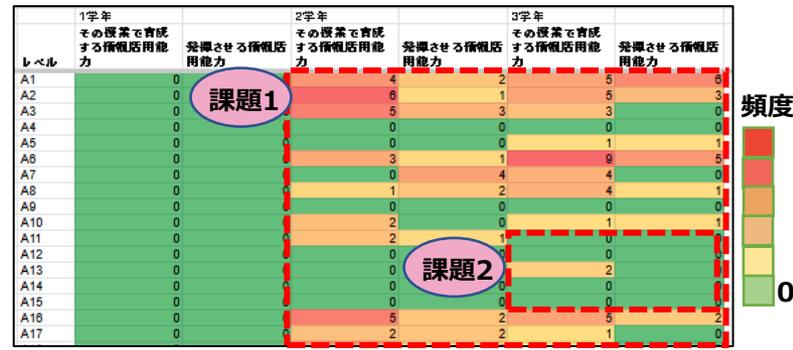
◎ 令和6年度の取組（情報活用能力の育成の実践集計）

チェックリストに基づいて授業毎に該当するカテゴリを当てはめた。

時期 教科	単元・学習内容		ICT活用場面	1年		2年		3年	
	月	旬		その授業で育成する情報活用能力	発揮させる情報活用能力	その授業で育成する情報活用能力	発揮させる情報活用能力	その授業で育成する情報活用能力	発揮させる情報活用能力
	4	4		中	[社会] 条約改正	条約改正にあたり日本のどのような取り組みが評価されたか? 「で交流する。」	A23	A1	
			[数学] 式の展開	を使って問題を共有し、提出ボックスに提出する。		A1			
			[美術] デッサン	直方体と球体のデッサンの制作過程の手順を「で個人に送った。口で説明したり、黒板の板書を活用するよりもラジオ体操の実践動画を自分で撮影し、Googleフォームで提出。その際にして、できなかつた事を感想文として提出したかまとめ、」	A2 A3	A3			
			[保健] 集団行動、ラジオ体操		A1	A1			
	5	下	[社会] 第一次世界大戦	第一次世界大戦後各国の状況がどう変化したかまとめ、」	A17	A23			
	5	上	[国語] 視手	ルロイ修道士への手紙【ドキュメント、オーディオ、ビデオ、」	A8	A23			

情報活用能力には
[い] その授業で育成する情報活用能力
[ろ] 発揮させる情報活用能力
 に分けると考え、分類した。

【表】 ヒートマップ1（学年別集計 レベル2[A] 2,3年）



● 集計によって見えてきた課題と対策

課題	分析	対策
課題1	育成する能力にムラがある	教科横断の視点を取り入れ、授業者任せの状況を打開
課題2	中3でもレベル2 [A]に到達できていない	目指す到達度を共有して取り組む
課題3	情報モラル・セキュリティに関する能力育成が不十分	校内で利用している教材の指導計画を見直す

● まとめ

情報活用能力の育成に関する取組みをチェックリストで集計し可視化した結果、課題が明らかになった。次年度以降、チェックリストの項目をさらに網羅できるように、学校全体で授業の改善を進めたい。

【表】 ヒートマップ2（カテゴリ毎集計）

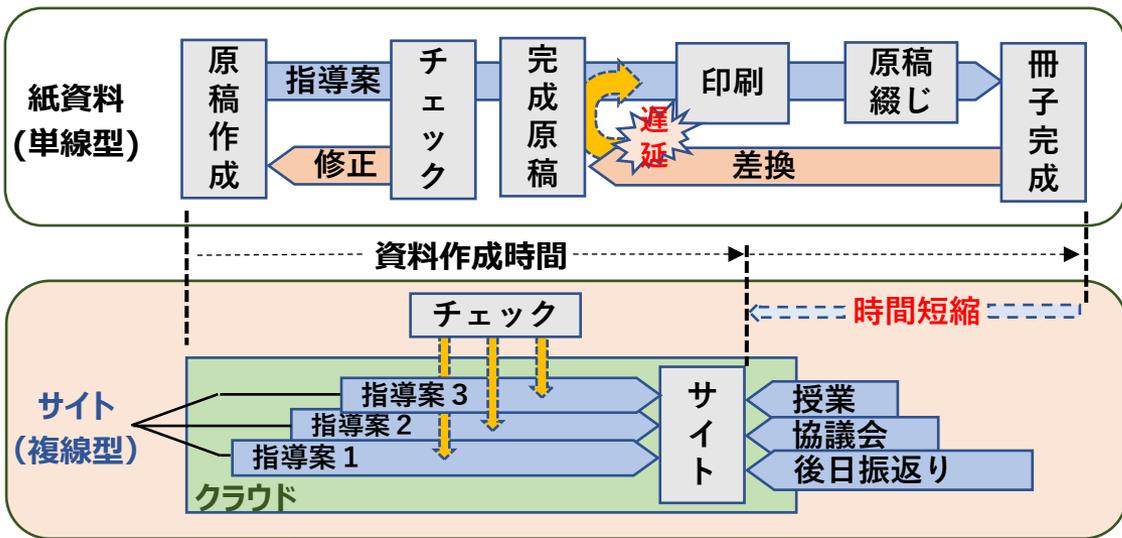
第1 部/2	第2部/3	第3部/3	レベル1（中学校1年）			レベル2（中学校2,3年）				
			発問	質成	合計	発問	質成	合計		
知識・技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術に関する技能 情報の活用 情報の活用方法の理解 	B1	3	4	7	A1	8	9	17
			B2	4	9	13	A2	4	11	15
			B3	0	1	A3	3	6	11	
			B4	0	2	A4	0	0	0	
			B5	0	0	A5	1	1	2	
	問題解決・探究における情報活用方法の理解	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決・探究・発表・発表の理解 情報活用方法の理解 情報の活用方法の理解 	B6	8	6	14	A6	6	12	18
			B7	4	3	7	A7	4	4	8
			B8	0	0	A8	3	5	8	
			B9	0	1	A9	0	0	0	
			B10	0	3	A10	1	3	4	
			B11	1	1	A11	1	2	3	
			B12	1	2	A12	0	0	0	
情報モラル・情報セキュリティに関する知識と技能	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル・情報セキュリティの理解 	B13	0	0	A13	0	0	0		
		B14	0	1	A14	0	0	0		

課題3

【取組内容】校務DX（公開授業研究会資料をGoogleサイトに掲載して業務を効率化する取組）

（標準仕様とクラウドを活用し教員の働き方改革につなげる取組）

◎ 研究会資料のクラウド移行により教員の時間的負担を大幅に軽減、集合・やり直しが不要に。



[表] 紙資料とサイト活用の比較

	利点	弱点
紙資料 (単線型)	見やすい。書込み可能。	紙消費。締切。原稿綴じ（人員確保）。冊子綴直し。
サイト (複線型)	同時作業。チェック容易。保管容易。人員確保・集合不要。	ICT技能が必要。紙の利点がない。

◎ 実際の様子

業務PC画面

2次元バーコード

★工夫

タブレットで見るため

指導案



◎ 現場の声

- ・ 冊子化作業のための待機や集合作業が無くなりうれしい。
- ・ 当日までに差換えれば良いので締切の焦りが無い。
- ・ 開催日前に指導案をしっかり読んで授業を見ることができるので、有意義な時間になった。
- ・ 資料に直接書き込めないのが不便。